

日本中東学会ニューズレター

JAMES
NEWSLETTER



No.149
2017/11/30

目 次

日本中東学会第 34 回年次大会の開催と研究発表募集.....	1
『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告	4
第 23 回公開講演会報告.....	5
韓国中東学会 (KAMES) 国際会議参加報告.....	8
第 5 回中東研究世界会議 (WOCMES 2018) への派遣について.....	9
寄贈図書	10
会員の異動.....	11
連絡先をご存じないですか.....	12
事務局より	12
編集後記	12

日本中東学会第 34 回年次大会の開催と研究発表募集

2018 年度の日本中東学会大会第34 回年次大会は、上智大学が担当いたします。日程は5月12日 (土)、13日 (日) で、両日ともに、上智大学四谷キャンパスで開催いたします。

実行委員会は、上智大学総合グローバル学部を中心に、同校の教員、関係者にも協力を得て構成されています。土曜日の公開講演などについても企画は進行中で、上智大学にちなんだものを考えております。ぜひ多数のご参加をお待ちしております。

(小牧昌平 大会実行委員長)

2018年度の年次大会は例年どおり、大会の1日目が公開企画と総会、2日目が研究発表になります。どうぞよろしく御参集くださいますようお願い申し上げます。

開催日時：2018年5月12日（土）・13日（日）

開催場所：上智大学四谷キャンパス（東京都千代田区紀尾井町7-1）

上智大学四谷キャンパスの位置は下記のURLでご確認ください。

http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/map/map_yotsuya

【実行委員会】

委員長：小牧昌平（上智大学）

事務局長：岩崎えり奈（上智大学）

委員：赤堀雅幸、阿部るり、荒井康一、岡戸真幸、私市正年、澤江史子、福永浩一、丸山英樹（以上、上智大学）

【個人研究発表・企画セッション】

研究発表の応募要項は以下のとおりです。研究発表をお考えの方は、どうぞふるってご応募ください。応募の締め切りは、1月7日（日）とさせていただきます。

1. 研究発表

研究発表を希望される方は、1月7日（日）までに年次大会実行委員会までメールにてご応募ください。メールアドレスは、jamesophia2018@gmail.comです。その際、下記の諸点についてお知らせください。

- ① 氏名：漢字もしくはカタカナ表記
- ② 氏名のローマ字表記
- ③ 所属：大学院生の場合はその旨を明記
- ④ 連絡先メールアドレス
- ⑤ 発表タイトル（仮題も可）
- ⑥ 発表内容の概要：日本語400字程度／英語200words程度。日本語か英語のいずれかで結構です。テーマと内容が明快にわかるように記してください。正式の「要旨」につきましては、実行委員会での採否の決定後、改めて発表予定者に執筆をお願いしますこととなります。発表の言語は、原則として、日本語か英語のいずれかとします。それ以外の言語での発表をご希望の場合は、実行委員会事務局までご相談ください。
- ⑦ プロジェクター使用希望の有無：なお、プロジェクター以外の映像機器（OHP、現物投影機等）の使用をご希望の場合は、実行委員会事務局までその旨ご連絡ください。可能な限りご希望にそえるように致しますが、用意できない場合もありますことを予めご了解ください。また、プロジェクターに接続するPCについては用意いたしますが、必要に応じて発表者各自でノートパソコンや接続用ケーブル、

マックの場合は接続用アダプターをご自身でご用意下さい。実行委員会として、会場でのネットへのアクセス環境を準備することはできかねます。

- ※ 応募された方には、年次大会実行委員会から1週間以内に受信確認のメールを差し上げます。受信確認メールが届かない場合は、実行委員会事務局長・岩崎のメールアドレス (iwasaki@sophia.ac.jp) 宛に必ずご一報ください。

2. 企画セッション

第34回年次大会では、会員による企画セッションも募集します。特定のテーマに関する企画セッションの開催をご希望の方は、以下の要領でご応募ください。応募締め切りは、研究発表と同じく1月7日（日）です。

一つの企画セッションの持ち時間は、発表・コメント・質疑応答を含め1時間30分とし、発表者は3名程度とします。コメンテーター（討論者）をつけるかどうかは自由ですが、必ず1名の司会者が必要です。企画責任者・発表者・司会者はすべて日本中東学会会員であることとします。また、企画責任者は、発表者・司会者・コメンテーターのいずれかを必ず兼ねることとします。企画責任者が、発表者と司会者、あるいは、司会者とコメンテーターの二役を兼ねることもできます。なお、コメンテーターは非会員でも構いません。

企画責任者は、1月7日（日）までに年次大会実行委員会までメールにてご応募ください。メールアドレスは、jamesophia2018@gmail.comです。

その際、下記の諸点についてお知らせください。

- ① 企画責任者氏名：漢字もしくはカナカナ表記とローマ字表記の双方
- ② 企画責任者の所属
- ③ 企画責任者の連絡先メールアドレス
- ④ 使用言語：原則として、日本語か英語のいずれか。それ以外の言語をご希望の場合は、実行委員会事務局までご相談ください。
- ⑤ 企画セッションのタイトル
- ⑥ 企画セッションの主旨：日本語400字程度／英語200words程度。日本語か英語いずれかで結構です。
- ⑦ 参加者一覧：各参加者氏名の漢字もしくはカタカナ表記とローマ字表記の双方、所属、セッションでの役割。司会とコメンテーターは応募時点では未確定でも構いません。
- ⑧ 各発表者の発表要旨：⑥の企画セッションの主旨と同様の分量・要領
- ⑨ プロジェクター使用希望の有無：なお、プロジェクター以外の映像機器（OHP、現物投影機等）の使用をご希望の場合は、実行委員会事務局までその旨ご連絡ください。可能な限りご希望にそえるように致しますが、用意できない場合もありますことを予めご了解ください。また、プロジェクターに接続するPCについては用意いたしますが、必要に応じて発表者各自でノートパソコン、接続用ケーブル、接続用アダプター等をご自身でご用意下さい。実行委員会として、会場でのネッ

トへのアクセス環境を準備することはできかねます。調整の都合上、企画内容等について、実行委員会から問い合わせや御相談をさせていただく場合があります。

- ※ 応募された方には、年次大会実行委員会から1週間以内に受信確認のメールを差し上げます。受信確認メールが届かない場合は、実行委員会事務局長・岩崎のメールアドレス (iwasaki@sophia.ac.jp) 宛に必ずご一報ください。

3. 託児所

託児所の利用をご希望の方は、実行委員会事務局までお申し出ください。申し込みの締め切りにつきましては、メーリングリストなどで追って通知いたします。

4. 宿泊について

東京都内の宿は常時混み合っております。年次大会に参加される予定の方は、十分な余裕をもって早めに宿を手配されることをお勧めいたします。

連絡先：日本中東学会第34回年次大会実行委員会事務局
〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学外国語学部 岩崎えり奈研究室
Tel : 03-3238-3953 (岩崎研究室直通)
E-mail : jamesophia2018@gmail.com

- ※ 可能な限りメールにてご連絡くださいますようお願い申し上げます。
(岩崎えり奈 大会実行委員会事務局長)

『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

1. 33-2号 現在編集中

33-2号では、論文2本、研究ノート1本、書評1本、博士論文要旨1本が採用されました。

現在、来年1月の刊行を目指して編集作業を鋭意進めております。

2. 34-1号 投稿締切

34-1号の締切は12月1日です。論文、研究ノート、書評等さまざまなジャンルでの投稿をお待ちしております。とくに欧文での投稿を推奨、歓迎しております。また、英文による特集の企画がありましたら、ぜひご投稿ください。

3. 博士論文要旨

AJAMESでは、会員による中東関連の博士論文要旨(英文)を掲載しています。と

くに締切を設けておりませんので、最近博士論文を提出された会員の方は、随時ご投稿ください。また、お近くに中東関連で博士論文を提出された方がいらっしゃれば、ぜひ投稿を呼びかけてください。

4. 投稿規程改定

総会での決定に基づき、投稿規程が改定されました。今後、著者には紙媒体の抜刷の代わりに PDF 形式の抜刷を提供いたします。希望者は紙の抜刷を有償で注文することができます。

本誌に関するお問い合わせ先、原稿投稿先は以下のとおりです。

〒183-8534

東京都府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 近藤信彰気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames-editor@james1985.org

(近藤信彰 AJAMES 編集委員長)

第 23 回公開講演会報告

第 23 回公開講演会「中東の戦争と平和：ヒロシマから考える」

日時：2017 年 9 月 30 日（土）14:00-17:20、広島国際会議場中会議場にて

主催：本学会

後援：広島大学大学院総合科学研究科、広島大学平和科学研究センター、
広島市立大学広島平和研究所、中国新聞社

【プログラム】

司会

桜井啓子（本学会理事（企画担当）、早稲田大学国際教養学部教授）

講演

吉村慎太郎（本学会会員、広島大学大学院総合科学研究科教授）

「中東の戦争・核・平和：新たな理解のための視点」

黒木英充（本学会会長、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）

「シリア内戦：最古の都市文明の地から見る人類の近未来」

吉川元（広島市立大学広島平和研究所長）

「戦争と平和の歴史：平和と人間の安全保障の相克」

コメント

川野徳幸（広島大学平和科学研究センター長）

栗田禎子（本学会理事、千葉大学文学部教授・パグウォッシュ会議評議員）

【報告】

第23回となる本年度の公開講演会は、本学会会員で広島大学に勤務される吉村慎太郎氏の全面的な協力を受け、9月30日に広島市の国際会議場で開催されました。企画立案を中心的に担ったのは、昨期の理事会で企画担当理事を務めていた黒木英充会長です。

題目が語るように、今回の講演会は、『中東＝戦争』のイメージはありませんか？実際、中東では戦火が絶えないのですが、それはなぜなのか。『核廃絶』を中心に世界平和の実現を訴え続ける『ヒロシマ』から考えてみましょう」という狙いを込めて企画されたものでした。3本の講演と2本のコメント、休憩時間に聴衆から募った質問にもとづく質疑応答というのが、プログラムの大まかな流れでした。

まず、吉村慎太郎氏による講演は、イスラエルとイランによる核兵器開発ないし核兵器開発疑惑を題材として取り上げ、両国および中東地域一般が帯びた、歴史的な、あるいは国際政治上の、個性を浮き彫りにしました。中東の特徴としては特に、外部からの価値的偏向を伴った介入・操作とそれを通じた矛盾の増幅という現象が挙げられ、そうした基層的な諸条件とそれぞれの事象を取り巻く個別具体的な事情を丁寧に見ていくことこそが、その時その時の状況理解にとって決定的に重要であることが述べられました。また、中東における核抑止論や加害・被害に関する議論のあり方は、



趣旨説明を行う黒木英充会長



熱弁をふるう吉村慎太郎氏
(スライド利用のため渋めの写真になっています)

地域の枠を越えた普遍的な問題につながるものとして、まさに「ヒロシマから考える」のに値する問題であることが指摘されました。

続いて演壇に立った黒木英充氏は、シリアで進行中の内戦について語りました。まず、「最古の都市文明」の地としての内戦前のシリアが、(色々と問題はあったにしても)どのような芳醇な社会を維持していたかが、「シリア愛」豊かに語られました。ついでそのシリアとその人々が内戦によって何を経験しつつあるのかが、聴衆の皮膚感覚に強く訴える形で説明されました。さらに、内戦への外部からの介入の様相と、シリアを出て行かざるをえなかった難民たちの各地での現在の様子が語られました。その上で黒木氏は、このようなシリア内戦の様相とそれを取り巻く状況は現在の世界全体の動向を如実に反映するものであるとの見解を述べ、シリアにおける状況が「私たちの近未来でないと言えるだろうか」と問いかけて講演を終えました。

吉村・黒木講演とは打って違い、三番目の吉川元氏による講演は、近代以降の戦争と平和の歴史を大局的な視点から語り、その中からアラブ中東諸国の紛争についても展望を示すという内容のものでした。吉川氏はまず、戦争の性質や戦争をめぐる政治的計算の方程式が、機関銃の発明に代表される近代以降の戦争の機械化、そして核兵器の出現によってどのように変化してきたかを語りました。その上で、今後のアラブ中東諸国の紛争の将来について、独裁国家が崩れるとエスニック国家が成立し紛争が長期化するというのが世界的に見て一般的な法則であるが、アラブ中東諸国もまさにその道をたどってお



今度は講師として登場し、シリアと世界を語る黒木氏



吉川元氏の講演風景



プログラムはコメントへと進む
(右からコメントータの栗田禎子氏、川野徳幸氏)

り、紛争的状况は長期化するであろうと予測し、講演を結びました。

川野、栗田両氏によるコメントでは、現代中東の諸問題の根底にはいまでも続く植民地的状況という問題が横たわっていることや、中東と東アジアの間には実は強い連関があることなどが改めて指摘されました。また、川野氏からは、中東学会と広島市の市民両方に向けて、中東学会が「中東の戦争と平和」についての公開講演会を催すにあたり「ヒロシマ」を会場に選んだのはなぜ

か、そもそも広島市民はその選択に応えられるような平和への意識や他者への共感を持っているのか、という（広島市民にとっては挑発的な）問いかけもなされました。

折からの晴天ということもあってか、聴衆の規模は決して大きくありませんでしたが、市民として、日本という国家として、あるいは国際社会として、「我々」には何ができるのかという質問がいくつも出されたことに示されるように、コミットメントの高い方々にお集まりいただき、語り手にとっては語り甲斐のある会となっていたように思われます。企画側の一員として参加した私も、中東の現状と問題だけでなく、広島の抱える問題についても色々学び、考えることができました。講師・コメントータの皆さま、そして運営に尽力して下さった広島大学の吉村先生と大学院生の皆さま、また中国地方の会員の皆さまに、心からお礼申し上げます。

（森本一夫 企画担当理事）



司会、桜井啓子理事

韓国中東学会（KAMES）国際会議参加報告

韓国中東学会（KAMES）主催の国際会議 Seeking Harmony and Prosperity for the Middle East in the Era of Uncertainty が、本年9月22日～24日の3日間にわたり、韓国・ソウルの韓国外国語大学（Hankuk University of Foreign Studies）および参加者の宿泊先でもあったソウル市内のプレジデント・ホテルにて開催された。本学会からは黒木英充会長（東京外国語大学 AA 研）や東長靖理事（京都大学）をはじめ、小島宏会員（早稲田大学）、ゴラムレザ・ナスル会員（広島大学大学院博士課程）、佐藤紀子会員（釜慶大学）、清水学会員（ユーラシア・コンサルタント）、鈴木啓之会員（日本学術振興会特別研究員 PD）、田中総一郎会員（一橋大学大学院博士課程）、鳥山純子会員（日本学術振興会特別研究員 PD）、嶺崎寛子会員（愛知教育大学）、および本学会事務局長（勝沼）が参加し、報告者あるいは司会・コメントーターをつとめた。

大会2日目に「政治」、「経済」、「文化・社会」、「言語・文学」、「産学クラスター」と題された計7セッションが行われた。韓国の中東研究の出発点ともなった社会科学

分野にとどまらず、いわゆる人文科学分野に関する報告も数多く含まれた多様性に富むプログラムが組まれていた。報告者の出身も同様に多様であり、韓・日・モンゴルなどアジア中東学会連合を構成する諸国に加え、イランやヨルダン、イスラエルといった中東諸国、シンガポールやジンバブエなどの大学・研究機関に所属する研究者が報告を行い、まさに国際会議の名にふさわしい陣容を示していた。

会議の運営においては、各報告の内容に応じた適切なコメンテーターをあらかじめ配するなど、議論の活性化を促すための周到な準備がなされていたほか、韓国政財界より幅広い財政的支援を取り付けるなど、会議の成功に向けさまざまな努力がなされていることがうかがわれた（聞くところによると、韓国中東学会はこの国際会議を含め研究集会を年3回開催しているとのこと、準備にさいしてのご苦労はいかばかりであろうか…）。多忙の中、周到な事前準備を積み重ね、会議の成功を導いた Choe Youngchol 会長や Kim Suwan 大会実行委員長をはじめとする韓国中東学会の皆様にご敬意を表するとともに、陰に陽に大会当日の運営を支えた韓国の若手研究者・学生の皆様のご尽力に厚く御礼申し上げたい。また今回、大会実行委員会より会長・事務局長等に渡航・滞在費用が支給されたことにも深謝したい。（勝沼聡 事務局長）

第5回中東研究世界会議（WOCMES 2018）への派遣について

日本中東学会は、過去4回の WOCMES（2002年於マインツ、2006年於アンマン、2010年於バルセロナ、2014年於アンカラ）に学会としてパネルを派遣しており、大会の評議委員会にも評議員を出しています。来る WOCMES-5 は、ムスリム・キリスト教徒・ユダヤ教徒の三文化による共存共栄の歴史を誇るセビリヤ（スペイン）で開催されることとなり、先の4回の大会の成果をさらに展開すべく、中東研究に関する最新で幅広い情報を提供、交換して議論し、多様な視点の交錯する場を提供することを目指しています。（詳細は http://www.sesamoitalia.it/wp-content/uploads/2017/02/Invitation_WOCMES-2018.pdf#search=%27WOCMES5%27）

日本中東学会第17期理事会は、WOCMES-5にもパネルを派遣することを決定し、その準備作業は本年度の事業計画として年次大会で承認を得ました。また、前回は残念ながら落選しましたが、助成金を得るべく国際交流基金の「知的交流会議助成プログラム」に応募をすることも決まりました。

これにしたがって、学会員にパネル参加を募り、期日までに3件のパネル案の応募がありました。11月2日の理事会でそれらのパネル案について検討しましたが、国際交流基金の助成金を得るためにより有利なパネル構成へと手直しする方が望ましいとの意見が出されました。そこでその意見を応募者にフィードバックし、さらにメンバーを強化した2パネル案が提出されています。現在その2パネルを WOCMES-5 に派遣できるよう、国際担当理事で作業中です。パネル派遣の詳細については、派遣に必要な作業の区切りがついたところでもうご報告いたします。

なお、WOCMES-5 に個人ベースで参加することも可能ですし、現時点（11月26日）

で 25 件のオープンパネル（パネルのテーマと責任者 *convener* が決まっています、そのテーマに関するペーパーを発表したい場合にそのパネルに参加したいと表明できる）も発表されています。詳細は <http://www.wocmes2018seville.org/web/index.php/en/call-for-open-panels> を参照してください。また WOCMES-5 に参加するための手続き全般については、http://wocmes2018seville.org/web/images/doc/Guidelines_REV_06oct17.pdf をご覧ください。（山岸智子 国際交流担当理事）

寄贈図書

【単行本】

- 池田有日子『ユダヤ人問題からパレスチナ問題へ：アメリカ・シオニスト運動にみるネーションの相克と暴力連鎖の構造』法政大学出版局、2017 年
- 大坪玲子『嗜好品カートとイエメン社会』法政大学出版局、2017 年
- 中野暁雄『モロッコのベルベル語による民族誌的語り』堀内里香編訳、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所情報資源利用センター、2017 年
- 奈良本英佑『14 歳からのパレスチナ問題：これだけは知っておきたいパレスチナ・イスラエルの 120 年』合同出版、2017 年
- 原隆一・南里浩子・西秋良宏『東京大学総合研究博物館所蔵 大野盛雄教授旧蔵人文地理資料目録』（標本資料報告第 115 号）、東京大学総合研究博物館、2017 年
- TONAGA Yasushi (ed.), *Bibliography of Sufism, Tariqa, and Saint Cult Studies in Japan*, Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 1, Kyoto: Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies, 2016（東長靖編『日本におけるスーフィズム・タリーカ・聖者信仰研究文献目録』ケナン・リファーイー・スーフィズム研究センター、2016 年）
- TONAGA Yasushi (ed.), *The Bridge of Cultures: Potentiality of Sufism*, Kyoto Kenan Rifai Sufi Studies Series 2, Kyoto: Kenan Rifai Center for Sufi Studies, 2017

【逐次刊行物・ジャーナル・その他】

- 『アジア・アフリカ言語文化研究所 要覧』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2017 年
- 『アラブ・イスラム研究』15 号、関西アラブ研究会、2017 年
- 『イスラム世界』87 号、日本イスラム協会、2017 年
- 『日本クウェイト協会報 (Japan-Kuwait Society Bulletin)』238 号、日本クウェイト協会、2017 年
- 『Japan-Saudi Arabia Society 日本サウディアラビア協会報 Sadaqah』238 号、日本サウディアラビア協会、2017 年

会員の異動

【新入会員】

相磯 尚子

兼定 愛

佐藤 友紀

西川 優花

船津 靖

前田 君江

松田 和憲

Ahmed Amir al-Ajili

Brandenburg, Ulrich Jung

【所属先・連絡先の訂正・変更】

大崎 敦司

連絡先をご存じないですか

下記の会員の方々は、連絡先が不明なため、学会からのお知らせなどをお届けすることができないでおります。連絡先をご存じの方は、学会事務局までご連絡いただけますよう、ご面倒でもご本人にお伝えいただければ幸いです。

石田 正孝 小川 浩史 平山 健太郎 松浦 由佳子
El-Mostafa Rezrazi

事務局より

掲載情報を更新した新しい名簿の編集作業がようやく完了しました。情報をお寄せいただいた会員の皆様には厚く御礼申し上げます。間もなくお手元にお届けできる予定ですので、今しばらくお待ちください。なお、ニューズレター第148号（印刷版）と年会費振込用紙も同封いたします。会費未納分がおりの方は、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。ご自身の会費納入状況の確認をご希望の方は、事務局までお気軽にお問い合わせください。
(勝沼聡)

編集後記

前号の電子版は9月末の発行となりましたが、印刷版はこの号の公開と前後してお手元に届くことになりそうです。何だか不思議なことになってしまいました。年末に向けて、皆様の忙しさもいや増すところかと拝察します。どうぞ、ご自愛ください。私はWOCMES 2018へのパネル応募の準備やら何やらに難儀しています。

(赤堀雅幸)

日本中東学会ニューズレター 第 149 号
発行日 2017 年 11 月 30 日
発行所 日本中東学会事務局

日本中東学会事務局
〒108-8345 港区三田 2-15-45
慶応義塾大学文学部 勝沼聡研究室内
E メール: james@james1985.org
<http://www.james1985.org/>
郵便振替口座：00140-0-161096(日本中東学会)
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店(普)5346808
(日本中東学会)
ゆうちょ銀行口座：〇一九店(当)0161096
(ニホンチュウトウガクカイ)